

令和5年12月15日
(2023年)

保護者のみなさまへ

吹田市立西山田中学校
校長 池田 広 恵

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

【国語 調査結果の概要】

平均正答率は、全国平均値とほぼ同じという結果であった。学習指導要領の領域ごとに見ると「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」について課題が見られる。

問題の概要ごとにもみると「2二、二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」と「4一、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)」については、全国平均値をやや上回っている。「2三、それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する」「1四、インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く」は、全国平均値とほぼ同じである。しかし、「1三、相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する」「3二、漢字を書く(おし量って)」については、全国平均値をやや下回る。

【国語科における成果と今後の改善点について】

今回の調査結果から、単純な知識の問題などには対応できるということがわかる。歴史的仮名遣いなどの古文の知識を引き続き伝えていく。しかし、『「1三、相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する」「3二、漢字を書く(おし量って)」については、全国平均値をやや下回る。』とあるように、「意図を押し量る」「意味を押し量る」という部分に課題がみられる。授業の中で、様々な人数編成のグループによる話し合い、協働の時間を設け、他者の意見に対して、自分の意見を述べたり、他者の意見を参考にしたりするなどして、「こうかもしれない」と考える機会を増やせる授業づくりを行っていく。

【数学 調査結果の概要】

平均正答率は、全国平均値をやや上回った。学習指導要領の領域では「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」全ての領域で、全国平均値をやや上回った。

個別の問題で見ると「4：yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ」「5：女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める」「6（2）ははじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する」「7：1961年～1975年の四分位範囲を求める」「8（3）：グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する」「9（1）：2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する」が全国平均値を上回る。「2：12（ $x/4 + y/6$ ）を計算する」「空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ」は、全国平均値をやや上回る。しかし、「7（2）：「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する」については全国平均値をやや下回る。

【数学科における成果と今後の改善点について】

授業の最初に行う復習プリントで各単元の基本問題の定着を行い、習熟度別少人数授業の特性を生かし計算問題の時間を多く設けるなど日々の活動を大切にしてきた。授業の中に多く設定された問題演習に取り組む時間は生徒どうして教えあい、学びあう時間ともなっているため、ただ問題に取り組む時間よりも解き方・考え方の定着が進んでいるように思える。普段の授業の中で、日常の事象と関連付けたり、ICTを活用し、平面図形や空間図形では視覚的に捉えたりできる取り組みも行ってきた。図形上の動点を扱ったり、立体の切断面について問われる問題も、色のついた線や点が動くことでイメージしやすくなった生徒が数多くいたと思われる。

生徒どうして説明しあうことも大切にしているが、答え合わせの時に全員が理解できるように、生徒一人一人が学習言語を使って説明する取り組みの時間も多く設定している。また、ひとつの問題について、解き方が複数あるようなものは、違う解き方で解いた生徒を指名し、様々な解法を生徒どうして紹介できるように心がけている。どの解き方でも間違いではないが、より正確に速く解ける方法はどれか、と模索しながら問題に取り組む生徒も出てきている。

2つの単元の内容が合わさったような複合問題で正答までたどり着ける生徒が少ない、解き方が思いつかない生徒が多いのが課題である。今後も、「思考力、判断力、表現力等」をさらに向上させるため、積極的にグループ活動などを取り入れ、生徒が主体的に授業に参加できるようにしていく。数学に苦手意識を持つ生徒には個別の指導を、より発展した課題に取り組みたい生徒には発展問題に挑戦させるなど、生徒の課題と到達目標に合わせた授業づくりを行っていく。

【英語 調査結果の概要】

平均正答率は全国平均値とほぼ同じである。学習指導要領の領域「読むこと」について、全国平均値をやや上回る。「聞くこと」「書くこと」については、全国平均値とほぼ同じである。

問題別では「1（1）：ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」「2：忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する」「5（2）：事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する」「6：友達からのメールを読み、

相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する」全国平均値を上回る。「1（2）：道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」「7：図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」「8（2）：ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」「9（1）①：与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」は全国平均値をやや上回る。しかし「3：バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する」については、全国平均値をやや下回る結果となった。

【英語科における成果と今後の改善点について】

今回の調査結果から、1、2年生で学習した文法の内容に関しては概ね身につけていると考えられる。しかし、英語を正確に聞き取り、そこから必要な情報を読み取る力や、まとまりのある文章を読んで、内容を的確に理解する力に課題があることがわかった。また、「聞くこと」「読むこと」に比べ、それをもとに「書くこと」「話すこと」など、自分で考えをまとめ、表現することに課題が見られた。

今後の課題としては、これまでに習得した文法事項を適切に使い、文章を素早く正確に読んで、自分の考えをまとめ、表現することができるかという点が挙げられる。今後の授業の取り組みとして、まとまりのある文章を聞いたり、読んだりする取り組みを増やしていきたい。また、ペアワークやグループワークを活用しながら、自分の考えを発表する機会を多く設定し、表現力を伸ばしていきたい。

2 生徒質問紙に関する調査結果の分析

【調査結果】（全国平均値との比較）

[自分自身のことについて]

- ・自分には、よいところがあると思うと答えた生徒が全国平均値とほぼ同じである。
- ・将来の夢や目標を持っていると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じである。
- ・人が困っているときは、進んで助けていると答えた生徒が全国平均値をやや下回る。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないと答えた生徒が全国平均値とほぼ同じである。

[家庭生活・家庭学習について]

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていると答えた生徒が全国平均値をやや下回る。
- ・学校の授業時間以外に、普段1時間以上読書をする答えた生徒は全国平均値とほぼ同じ。
- ・読書が好きであると答えた生徒は全国平均値とほぼ同じ。
- ・朝食を毎朝食べていると答えた生徒が全国平均値とほぼ同じ。

[学校生活・学習について]

- ・学校が楽しいと答えた生徒は全国平均値とほぼ同じ。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをほぼ毎日使用したと答えた生徒が全国平均値を下回る。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと答えた生徒が全国平均値を上回る。
- ・1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている答えた生徒が全国平均値を上回る。
- ・学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

と答えた生徒は全国平均値を上回る。

- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると答えた生徒が全国平均値をやや上回る。
- ・授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていると答えた生徒が全国平均値をやや上回る。

3 今後の取り組み

【改善・向上のために（学校では）】

- ・自己肯定感や自尊感情を育成するために、授業内を中心に行事や学級活動、生徒会・委員会活動などで、頑張りを認めて声かけをしていく。
- ・将来についての展望を持っている生徒が一定数いる。しかしながら、まだ持っていない生徒もいるので、キャリア学習の取り組みを積極的に行う。
- ・いじめはいけないという意識を、いじめの授業を通して育てていく。
- ・学校内では友人同士で助け合っている姿が見られる。それが地域や社会でも困っている人に対して發揮できるように、生徒の勇気を育ててゆきたい。

【改善・向上のために（家庭では）】

- ・家庭内でも基本的な生活習慣の定着に留意し、子どもの健全な心身の成長を見守っていただく。
- ・家庭学習の計画や実践など家庭教育の充実を図っていただく。
- ・ゲームやスマートフォンの使用時間を家庭で管理していただき、その分、読書や家庭学習の時間にあてるように指導していただく。
- ・地域の行事やボランティアなどに子どもと進んで参加し、地域貢献やボランティア精神の向上に努めていただく。
- ・社会の動きや情勢に関心をもてるように、時事ニュース等について話し合う機会を家族でもっていただく。

今回の生活習慣や学習習慣の結果を踏まえ、生徒の自立と幅広い学習の機会を作るために今後も継続して、ご協力をよろしくお願いいたします。